

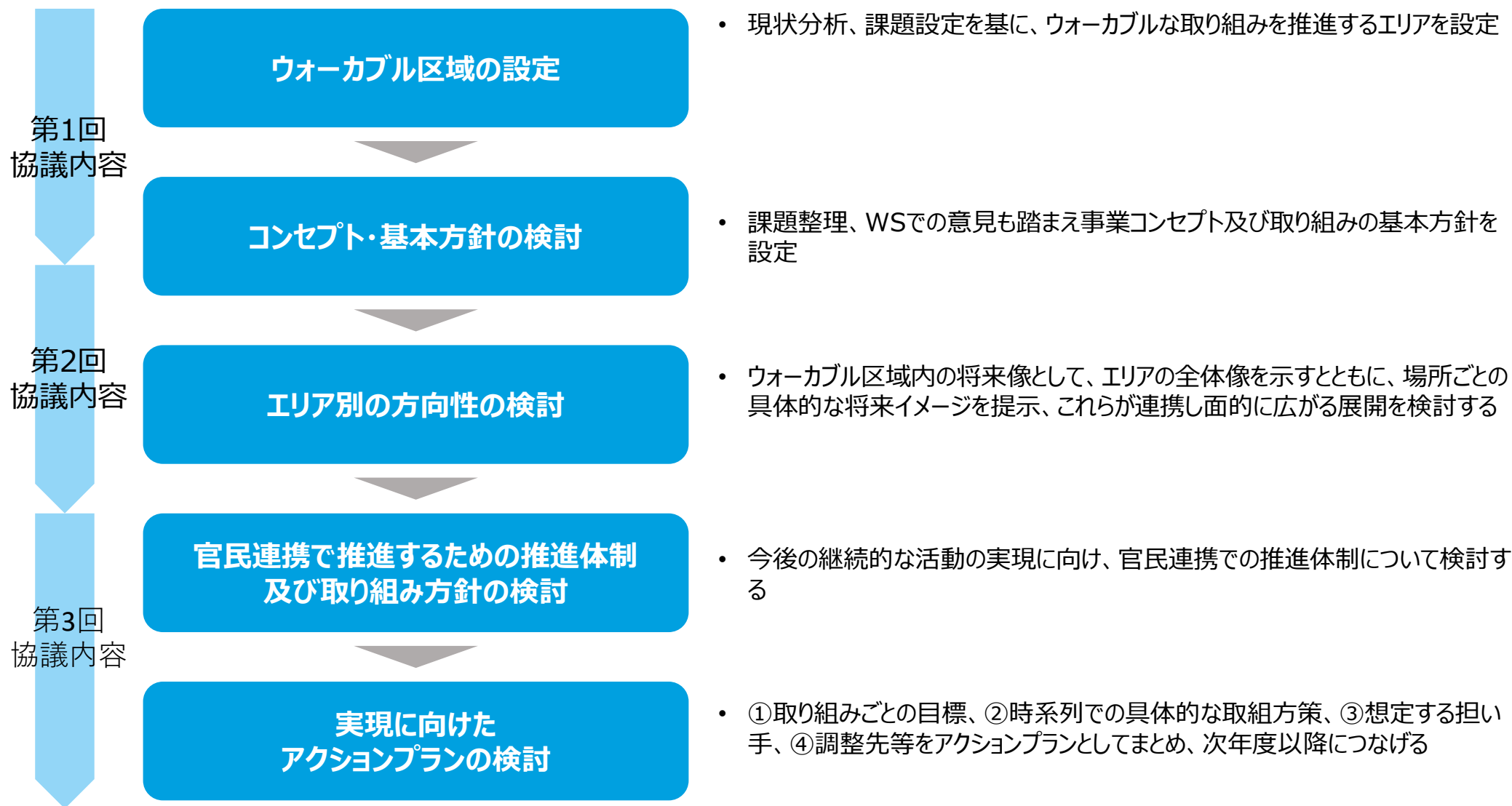
戸田市ウォークابل推進事業 北戸田駅周辺まちなかウォークابل 将来ビジョン（案） 【修正版】

令和6年2月
戸田市都市計画課

備考
「追加」「修正」以外にも表記の修正、デザインの更新を実施

本都市再生協議会における検討のプロセス

参考：公表時には削除



目次

大項目	中項目	記載概要
①ビジョンの趣旨・背景	1) ビジョン策定の趣旨・背景	• 冒頭のメッセージとして、将来ビジョン策定の趣旨を示す。
	2) ビジョンの位置づけ	• 上位・関連計画での位置づけを示す。
	3) まちなかウォークابلとは	• 国土交通省資料等を参考にまちなかウォークアブルの定義についてコラム的に紹介する。
②対象エリア	1) 対象エリア	• 対象となるエリアを図示するとともに、エリア設定の理由を示す。
③現況・課題	1) 現況分析	• 基礎調査データから、課題・方針設定に必要なデータを図表なども用いながらわかりやすく整理する。
	2) 課題整理	• コンセプトにつながる課題をわかりやすく整理する。
④将来ビジョン	1) コンセプト	• WSの意見等を踏まえまちの特徴にあった分かりやすいコンセプトとする。
	2) 基本方針のエリアマップ	• コンセプトを具体化するための基本方針をエリアマップに落とし込んだうえで整理し、示す。
⑤エリア別の方向性・取組イメージ	1) エリア別の方向性・取組イメージの整理	• ウォークアブルなまちの動線・ゾーニングを示すとともに、高架下空間や交流広場など、活用可能と考えられるエリア別の方向性と取組イメージを示す。
	2) 取組案の優先度判定	• 取組イメージについて、基本方針のうちの重点方針との整合性や早期の実現可能性から評価し、優先的に取組む事項を抽出する。
⑥実施体制の検討	1) 実施体制の構築	• 官民連携での意思決定の方策・枠組みを示す。
	2) スケジュール	• 概ね5年後までのロードマップを示す。

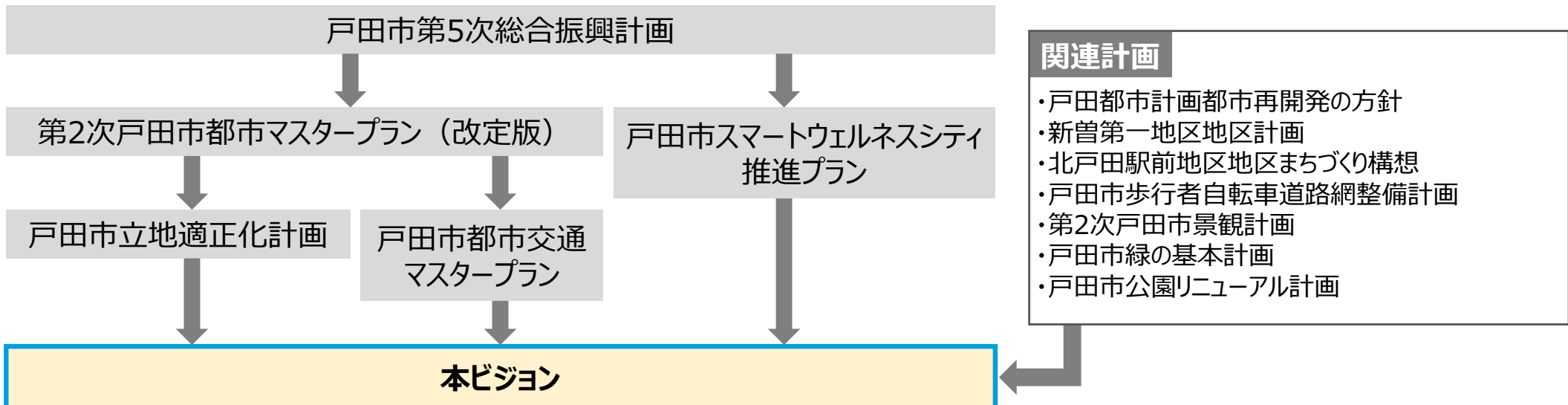
①ビジョンの趣旨・背景

1)ビジョン策定の趣旨・背景

- 戸田市は、JR埼京線が開通以降人口は増加傾向で、平均年齢が若く高齢化率が低い全国でも数少ない都市である。今後においても人口増・定着化を図るため、住み続ける・選ばれ続ける魅力的な都市の形成が求められている。
- このような中、国では、令和2年にウォーカブル推進法（改正都市再生特別措置法）が成立させ、街路空間を「車中心」から「人中心」の空間へ転換し、多様な人々の交流の場を形成することで都市の魅力を向上させる取組が進めている。
- 現在、新曽第一土地区画整理事業が進行中のJR北戸田駅周辺地域において「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成し、道路や公園などの公共空間を含めたエリア内の回遊性を高め、賑わいの場を創出することで民間活力を取り込み、地域全体の価値の向上を図り、都市の魅力を向上させることが期待されている。
- このため、市民・事業者等による協議会を組織し地域の課題等を検討しながら、持続的な官民連携のまちづくりに資する「将来ビジョン」の策定を目指す。

2)ビジョンの位置づけ

- 本ビジョンは、戸田市都市マスタープランやスマートウェルネスシティ推進プランなどを上位計画とし、関連する諸計画を参考にしつつ定めるものとする。



①ビジョンの趣旨・背景

3) まちなかウォークアブルとは

- まちなかウォークアブルとは、国土交通省都市局により提唱された概念であり、車中心から人中心の空間へと転換を図り、滞在環境の向上に資する取組を重点的・一体的に支援する一連の取組を指す。

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかのイメージ

Walkable

歩きたくなる

居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

Eye level

まちに開かれた1階

歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

Diversity

多様な人の多様な用途、使い方

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

Open

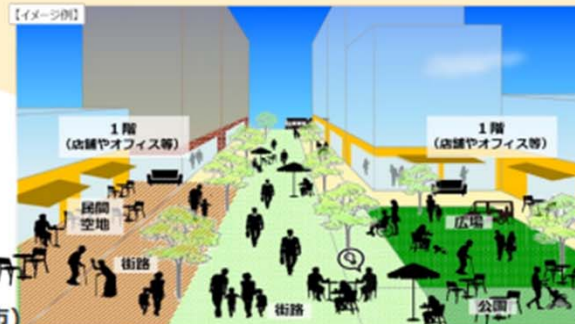
開かれた空間が心地良い

歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

1階をガラス張りの店舗にリノベーションし、
アクティビティを可視化
民間敷地の一部を広場化 (宮崎県日南市)



駅前のトランジットモール化と広場創出(兵庫県姫路市)



2つの開発の調整により
一体整備された神社と森(東京都
中央区)



道路を占用した夜間オープンカフェ
(福岡県北九州市)



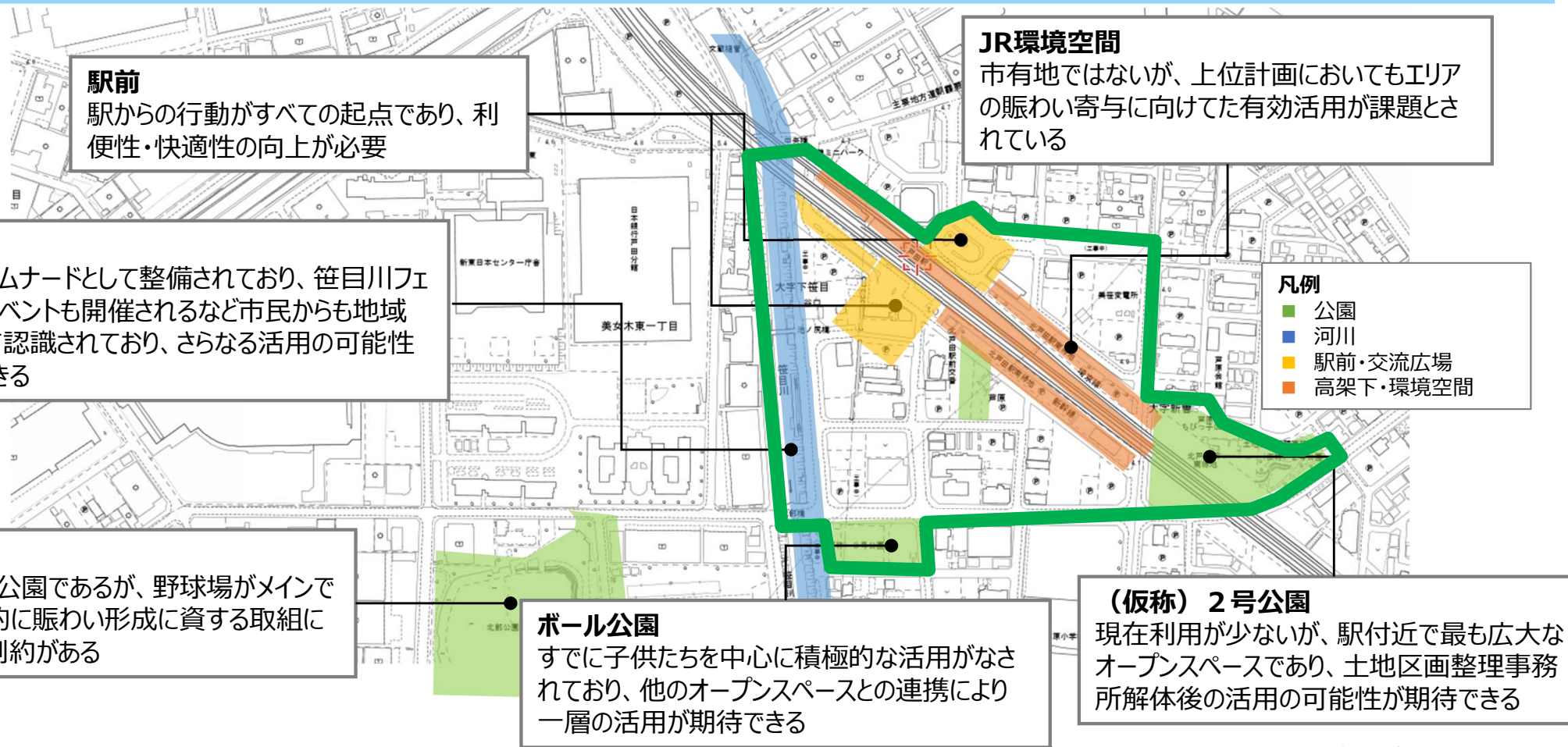
公園を芝生や民間カフェ設置で再生
(東京都豊島区)

出所：官民連携まちづくりポータルサイト

②対象エリア

1)対象エリア (ア) 公共的空間の抽出

- ビジョン策定にあたり、北戸田駅周辺の活用可能性のある公共的空間を抽出した。
- ワークショップ等で意見があった公共空間の利活用を見据え、笹目川・ボール公園・(仮称)2号公園・高架下・環境空間の利活用を通じて有機的に結びつけることで、将来的な沿道の活性化も期待し、これらのオープンスペースを含む範囲を本ビジョンの検討主対象としてまちなかウォーカブル区域として設定する。



地図データ：戸田市都市計画図「いいとだマップ」より引用

(参考) まちなかウォーカブル区域 (滞在快適性等向上区域)

まちなかにおける「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりを促進するため、歩道の拡幅、都市公園に交流拠点の整備、建物低層部のガラス張り化するなど、その区域の快適性・魅力向上を図るための整備などを重点的に行う必要がある区域。

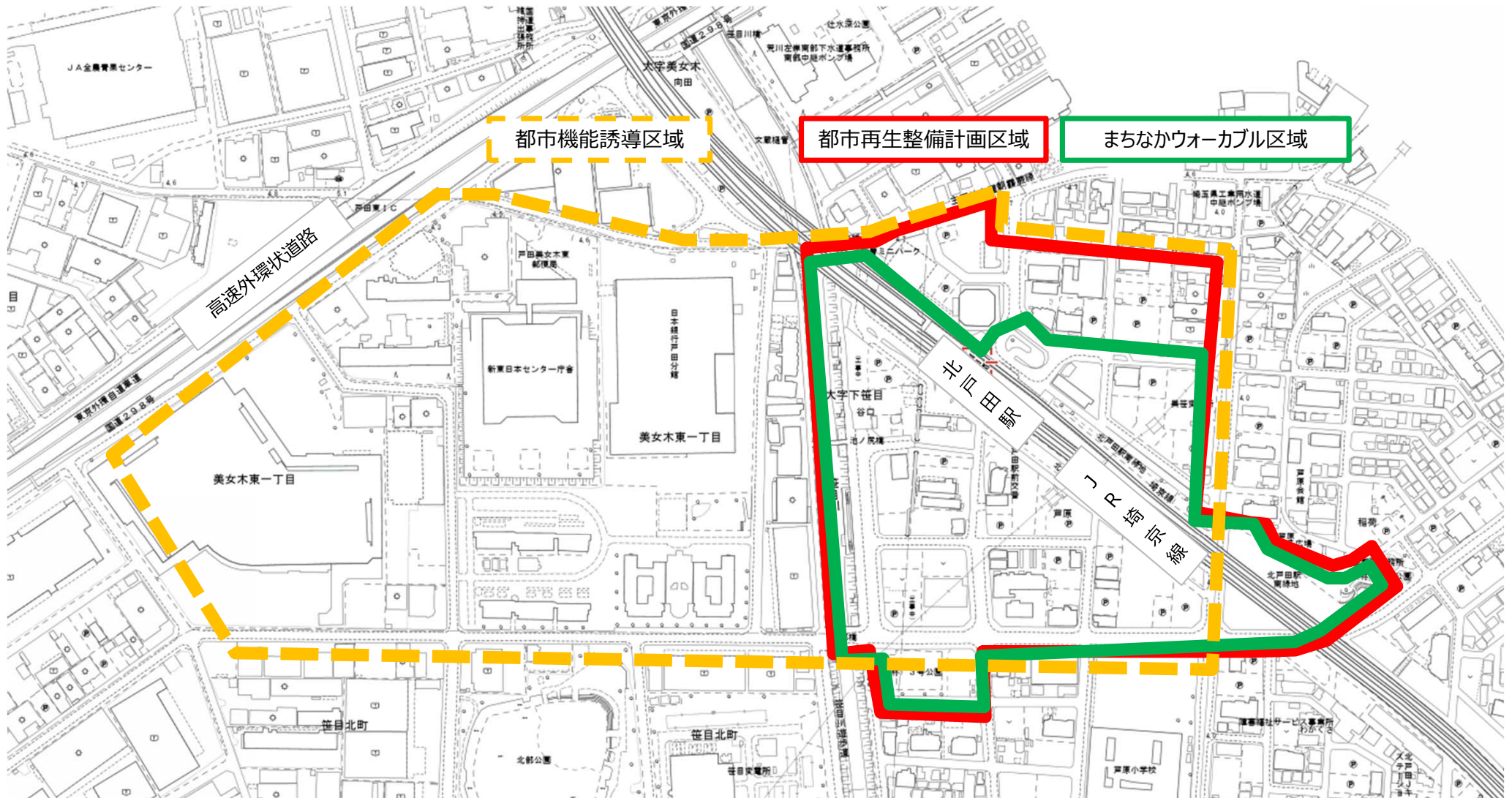
具体的な区域の設定は、地域の規模や実情に応じて異なるが、人々が歩いて広場、店舗などの様々な交流・滞在施設に立ち寄ることが想定される、1km程度の歩ける範囲のエリアを設定することが望ましいとされている。

②対象エリア

参考：公表時は設定プロセス削除

1)対象エリア (イ) まちなかウォークブル区域の設定

- 北戸田駅概ね1km圏内において、駅周辺の商業地域及び北戸田駅周辺地区地区計画の対象地区を基本とする。
- ワークショップ等で意見があった公共空間の利活用を見据え、笹目川・ボール公園・(仮称)2号公園・高架下・環境空間を利活用を通じて有機的に結びつけることで、将来的な沿道の活性化も期待し、これらのオープンスペースを含む範囲を本ビジョンの検討主対象としてまちなかウォークブル区域として設定する。



地図データ：戸田市都市計画図「いいとだマップ」より引用

③現況・課題

1)現況分析 (ア) 上位・関連計画

- 上位・関連計画（P3参照）によると、個性ある中心拠点の形成、安全・快適な交通結節点・道路空間の形成、駅前公共空間を活用した交流空間の形成、官民連携の街並み誘導が課題となっていることが示唆されている。

まちの顔に相応しい 個性ある 中心拠点の形成

- ✓ 戸田市は、高い水準の人口増加率を維持し、平均年齢が若く高齢化率が低い都市であるが、今後においても人口増・定着化を図るためには、ライフステージに合わせた多様なニーズに即した住環境整備が必要。
- ✓ 3駅それぞれの個性や特色が見出しにくいという現状に対し、住環境に求められるニーズの高度化・多様化を踏まえ、地域ごとのニーズに応じたまちづくりの推進が必要。

地域の有する課題やニーズ、3駅の個性を踏まえた、北戸田らしいコンセプトの検討が必要

安全で快適な 交通結節点・ 道路空間の形成

- ✓ 今後の高齢化の進行に備え、公共交通の充実を図るため、駅前空間の整備においては、乗り換え動線やサイクル&バスライドの検討など交通結節機能の強化を念頭に置くことが必要。
- ✓ 市域の地形特性を踏まえ、歩行者・自転車ネットワークの方針を踏まえた道路空間の在り方について検討が必要。
- ✓ 歩行や自転車利用の促進に向けては、目的地となる拠点の充実や、ネットワークの形成について検討が必要。

自動車・自転車・歩行者の共存・分離など将来の交通の在り方を踏まえた
拠点間を結ぶ動線計画や歩く快適さや楽しさを生む道路空間の活用方策の検討が必要

駅前の公共空間を 活用した 地域交流の 場の形成

- ✓ 北戸田駅周辺は、商業の集積が少ないことによる賑わい不足への対応が課題となっており、適切な商業機能等の誘導のほか、J R 埼京線沿いの環境空間において、公園・広場、生活道路、交流空間等としての活用を進めるとしており、本ビジョンにおいて環境空間の位置づけや活用方法について検討する必要がある。
- ✓ 市内で最も平均年齢が低いエリアであることから、若者を中心とした世代間のコミュニケーションの促進等が課題となっており、公共空間を活用した地域交流・魅力向上の方策について検討が必要である。
- ✓ 北戸田駅周辺で進められている都市計画道路、駅前交通広場の整備と整合を図る必要がある。

JR環境空間、整備予定の都市計画道路や駅前交通広場等ウォークブル空間としての位置づけを整理し、
地域を主体とし交流を促す場としての活用方法を検討する必要がある

官民連携による 街並み誘導

- ✓ 北戸田駅前には、中心拠点であり、まちの顔であることから、駅前に相応しい景観形成が必要である。
- ✓ 良好な景観形成に向けては、市民や事業者の理解、積極的な参画が重要であるが、市民などの理解促進に向け、まずは公共が先導し、公共施設での景観に配慮したデザインや緑化を推進する必要がある。
- ✓ 景観計画や、緑の基本計画を踏まえ、道路空間の緑化や、河川沿い及びその歩行者空間の緑化等による良好な景観形成について検討する必要がある。

公共空間における北戸田に相応しい景観の在り方を公共空間、民間敷地の双方から面的に検討し、
公共で率先して取り組める方策について検討する必要がある

③現況・課題

1)現況分析 (イ) 人流調査

- 北戸田駅周辺の人流データを調査分析したところ、休日は余暇等で訪れる需要が少ないこと、滞在・回遊する人が限定的なこと、通勤・通学以外で駅周辺に滞在する需要が少ない傾向が明らかになった。

分析結果・示唆まとめ 1 | 北戸田駅周辺では回遊性に乏しい

平日は通勤通学に伴い、北戸田駅周辺への移動需要（往来）があるが、休日は北戸田駅周辺に余暇等で訪れる需要が少なく、トリップ数の多いイオンモール北戸田へも自動車等で移動しており、北戸田駅周辺では回遊していない可能性がある。

分析結果・示唆まとめ 2 | 北戸田駅周辺で日常的な消費活動が少ない

北戸田駅周辺ではそもそも滞在・回遊する人がいない状況であり、近隣のイオンモール等に滞在して余暇を楽しむ需要は満たされている可能性がある。また、比較的若年層の日常的な消費活動は、北戸田駅周辺で行われている可能性がある。

分析結果・示唆まとめ 3 | 通勤・通学以外の歩行需要が少ない

通勤・通学以外かつ通過移動ではなく滞在するような歩行需要が少ない可能性がある。特に60歳以上の男性は60歳以上の女性が良く歩行する同時時間帯においても少ない状況であり、健康寿命の促進等を目的とする場合には、60歳以上の男性の需要に合った施策が必要である。

③現況・課題

1)現況分析 (ウ) アンケート調査

- 駅周辺1.5km圏の住民を対象にしたアンケートによると、駅周辺において目的地となる立ち寄り場所が不足し、駅が通り過ぎる場所になっている状況が伺える。一方で、駅周辺での消費ニーズはあり、駅周辺における魅力的なコンテンツの導入により、回遊のきっかけづくりや駅周辺での滞留の増加につなげることが期待できる。
- コンテンツの導入においては世代間のニーズの違いに留意することが必要。

アンケート結果概要

■北戸田駅周辺の利用現況・課題等

- 「通勤・通学」や「買い物」等の日常利用目的では一定程度利用頻度が確認できるものの、特別に目的を持って来訪する割合が低い。
- 北戸田駅来訪時も1人又は配偶者と来る割合が高く、また、滞在時間も10分以下と短い割合が比較的多い。そのことから、休日の余暇等で来訪・滞在されておらず日常生活における鉄道への乗り換え空間としてしか利用されていない可能性がある。

■北戸田駅周辺のポテンシャル

- 子ども有世帯では北戸田駅周辺以外は公園、河川の利用割合が、北戸田駅周辺よりも多い傾向にある。そのことから、公園や河川を子どもや保護者が利用しやすい環境を北戸田駅周辺に整備した場合、子ども有世帯の滞在を促すことができる可能性がある。
- 「食品・飲料」について北戸田駅周辺の方が、それ以外の地域よりも高い購入頻度である。
- 地域別では、高額消費は、いずれの年収区分においても北戸田駅周辺以外の方が多。そのことから、北戸田駅周辺において魅力的な消費活動場所がなく、やむを得ず北戸田駅以外において消費活動が行われている可能性がある。

■ウォーカブル空間整備に向けた課題等

- ウォーカブルな空間を目指すにあたっての課題や改善点は、「駅周辺において、賑わいが不足している」、「まちなかにおいて、散策しながら訪れるに資する魅力的な施設が不足している」を指摘する意見が多く、まずは目的地になりうる場所や賑わいを創出する必要がある。
- ウォーカブルな空間に求める機能として、二人以上世帯は単身世帯と比較して「まちなかにおける、歩きやすく、歩いていて楽しい空間」を、子ども有世帯は子ども無世帯と比較して「駅周辺における、多様な世代が滞在できる憩い空間」を重視する傾向にあり、属性別に望む機能が異なる可能性を考慮して検討する必要がある。

③現況・課題

1)現況分析 (エ) ワークショップにおける意見

- ビジョン策定にあたって、地域住民を対象としたワークショップを実施し、課題や将来像を把握した。
- ワークショップにおいては、生活サービス施設が少ないという意見や、まちの個性が見出しづらいという意見が挙げられた。
- 公共空間においては、公園や高架下などオープンスペースは存在しているものの、活用しきれていない状況がうかがえる。一方で、活用のアイデアやニーズはあり、アイデアの実現の場により地域活動の場となる可能性も期待できる。
- 地域の拠点となる機能の不足、地域の顔の見える活動の不足が地域の個性の不足にもつながっている。

ワークショップ（第1回）における意見

課題

まちの利便性が低い

まちの利便性が低い

賑わいや個性を感じにくい

人との交流が少ない

子育て向けのサービスが少ない

道路や川、公園の雰囲気が悪い

自然が少なく、未利用の空き地等が多い

使い方

交流の拠点・シンボル

- 高架下にアトリエやファブラボ、コワーキングスペース、アートギャラリー
- 戸田市らしさのあるイベント開催
- 笹目川沿いで憩える空間づくり
- 子どもから高齢者まで交流できるイベント、スペースづくり
- イルミネーション演出した道づくり
- 駅前から笹目川までを結ぶ動線

賑わい創出の場

- 高架下にボルダリングやスケートボードなどのアーバンスポーツエリア、ドッグラン設置
- アート展示、キッチンカー、大道芸イベント、マルシェ、音楽イベント開催（駅前・公園・高架下）
- オープンカフェ（道路、笹目川）
- カフェ併設公園、BBQ可能な広場

自然を身近に感じられる場

- 駅前から広場や公園をつなぐフラワーロード、グリーンベルトの構築
- 花壇を設置し自主的に運営管理
- 水辺空間を楽しむ川下りイベント
- 空き地を活用した市民農園による農業体験

子どもが遊び・学べる場

- 高さのある大型遊具の設置（高架下）
- 子育て支援施設、保育園送迎ステーションの設置（駅前）
- 親と子どもが集うスペース、親子で滞在できる場
- 市外からも来たくくなるような遊具が充実した公園

③現況・課題

2) 課題整理

- 前頁までの1) (イ) ~ (エ) の現況分析より、駅周辺の魅力ある目的地の少なさに起因して駅周辺の回遊がみられないものと考えられる。道の歩きにくさ、景観性に乏しいことなども課題として挙がっている。
- 一方で、公共空間の活用のアイデアやニーズはあり、アイデアの実現の場により地域活動の場となる可能性も期待できる。
- そのため、まずは駅周辺のオープンスペースを活用した活動・滞留の場を設け、徐々に北戸田の個性を育てていくことが必要であり、そのうえで、歩きやすさや景観にも配慮していく必要がある。
- 将来的には、商業機会の創出により、商業や地域交流が持続可能な形で展開されていくことが望ましい。

緑：人流調査・アンケート結果、黄：WS意見

ハード面の課題

北戸田駅周辺において魅力的な消費活動場所がなく、やむを得ず北戸田駅以外において消費活動が行われている可能性

立ち寄りできる店がない

自然が少なく、未利用の空き地等が多い

子育て向けのサービスが少ない

道がわかりにくい

道路や川、公園の雰囲気が悪い

ソフト面の課題

北戸田駅周辺で日常的な消費活動が少ない

通勤・通学以外の歩行需要が少ない

賑わいや個性を感じにくい

特別に目的を持って来訪する割合が低い

人との交流が少ない

北戸田駅周辺では回遊性に乏しい

使い方のアイデア

交流の拠点・シンボル

賑わい創出の場

自然を身近に感じられる場

子どもが遊び・学べる場

④ 将来ビジョン（コンセプトを構成する要素）

1) ワークショップから得られたコンセプトを構成する要素

- コンセプト策定にあたり、第2回ワークショップにおいて地域内のエリア別の将来像について参加者から意見を募った。
- エリアごとに分類すると場所の使い方や目的性などに特徴がみられた。全体では、「明るい空間構成」「豊かな感性や自己実現を支える場」「遊びやスポーツを通じた健康づくり」「豊かな子育て環境」「多世代交流」等の実現・質の向上を志向する将来像がみられた。

エリア	ワークショップで得られたキーワード			コンセプトを構成する要素
駅前	# 明るい駅 # 統一したデザイン # AR/MRデジタル # ライトアップ # イルミネーション	# マルシェ # 憩いの場 # イベントスペース # 駐車場 # 自転車	# ピクニック # 文化施設 # 作品展示 # 遊び走り回れる	明るい空間構成
高架下	# イベント # コワーキング施設 # シェアキッチン # スケボーパーク # ボルダリング	# 駐車場 # トイレ # イベントスペース # フリースペース # アーケード街	# SOHO # チャレンジショップ	豊かな感性や自己表現を支える場
公園	# オープンスペース # アスレチック # 多世代が使える # 強いコンセプト # カフェがある公園 # 子どもが楽しめる	# ベビーカーでも行きやすい # 球技OK # バーベキュー # ミニキャンプ # イベント広場	# ゴミがないきれいな公園 # コンサート開催 # 親子スポーツ大会 # 遊びサポーターの設置	遊びやスポーツを通じた健康づくり
笹目川	# イベント # 花壇 # 自然を感じる # きれいな川づくり # 憩い・リフレッシュ	# サイクリング # ジョギング・散歩 # プロムナード # 水辺・水遊び # リビング的な空間	# 遊歩道 # 公園との一体感	豊かな子育て環境
移動・滞在空間	# 歩いて楽しい # 公園・駅・川をつなぐ # 回遊	# 飲食店 # ランニングロード # サイクリングロード	# イルミネーション # 木陰・夏場でも涼しい # 植樹	多世代交流

④ 将来ビジョン（コンセプト案・基本方針）

2) コンセプトの構築に向けた方向性

- 現況・課題からウォークアブル実現のためのコンテンツが不足しているものの、地域資源・活力や市場としての可能性は一定程度存在することが示された。また地域の意向として、公共空間を明るくオープンにし、誰もが自己実現の場として活用したい意向が示された。
- これを受け、当該地域資源・活力を有効に活用しつつ、民間事業として育成を行政が強力に推進していくことで、まちと人が変わり続け、その変化が楽しみにつながっていく街としていくことをコンセプト構築に向けた方向性とする。

コンセプトの構築に向けた方向性

新しいチャレンジを応援し、育んでいくことで
街並みと人が変化し続ける楽しみのあるまち、北戸田

基本方針

優先的に取り組む
重点方針

重点方針 駅周辺における創造・チャレンジの場創出によるまちなかを歩きたくなる、魅力的なコンテンツやにぎわいの形成

- 賑わい創出 | 多様な世代が楽しめる施設の誘致、イベント開催によるにぎわい創出
- 健康の促進 | 歩きたくなるまち並みやスポーツ・アクティビティできる場所の創出による健康増進
- 市場形成 | 誰でもチャレンジできる、ユーザーも楽しめる場を作ることによる、市内の経済活動の活性化
- 多世代交流 | イベント等による市民・企業・行政の交流を通じたコミュニティ形成、シビックプライドの醸成、地元定着
- 官民連携による活力向上 | 市民意見に基づき、イベントや取組等のアイデアを官民連携にて効果的に創出・実現

基盤となる方針

基盤方針① 安全で快適な交通結節点や移動・滞在空間の形成

- 安全・安心 | 歩行者、自転車、自動車の空間が適切に分担され、夜でも明るく、安心して行き交える空間
- 快適性 | まちなかで休憩・滞在できるテーブル・ベンチや、夏でも快適に歩ける緑空間の整備・維持管理

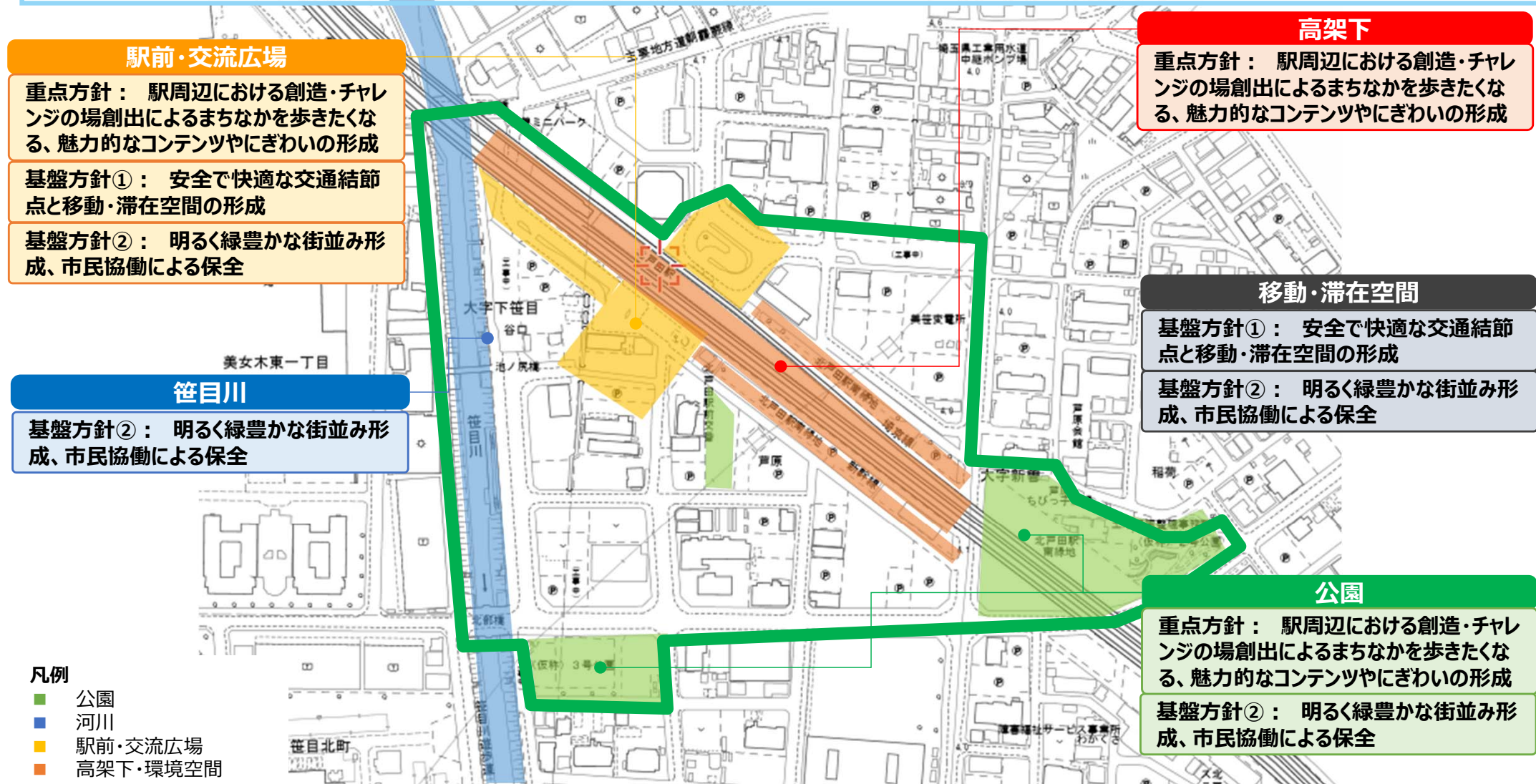
基盤方針② 明るく緑豊かな街並み形成、市民協働による保全

- 空間デザイン | 市民のアイデアや取り組みが公共空間整備に反映される枠組み
- 維持管理 | 公共空間の持続可能な市民参画型維持管理

④ 将来ビジョン（基本方針のエリアマップ）

3) 基本方針のエリアマップ

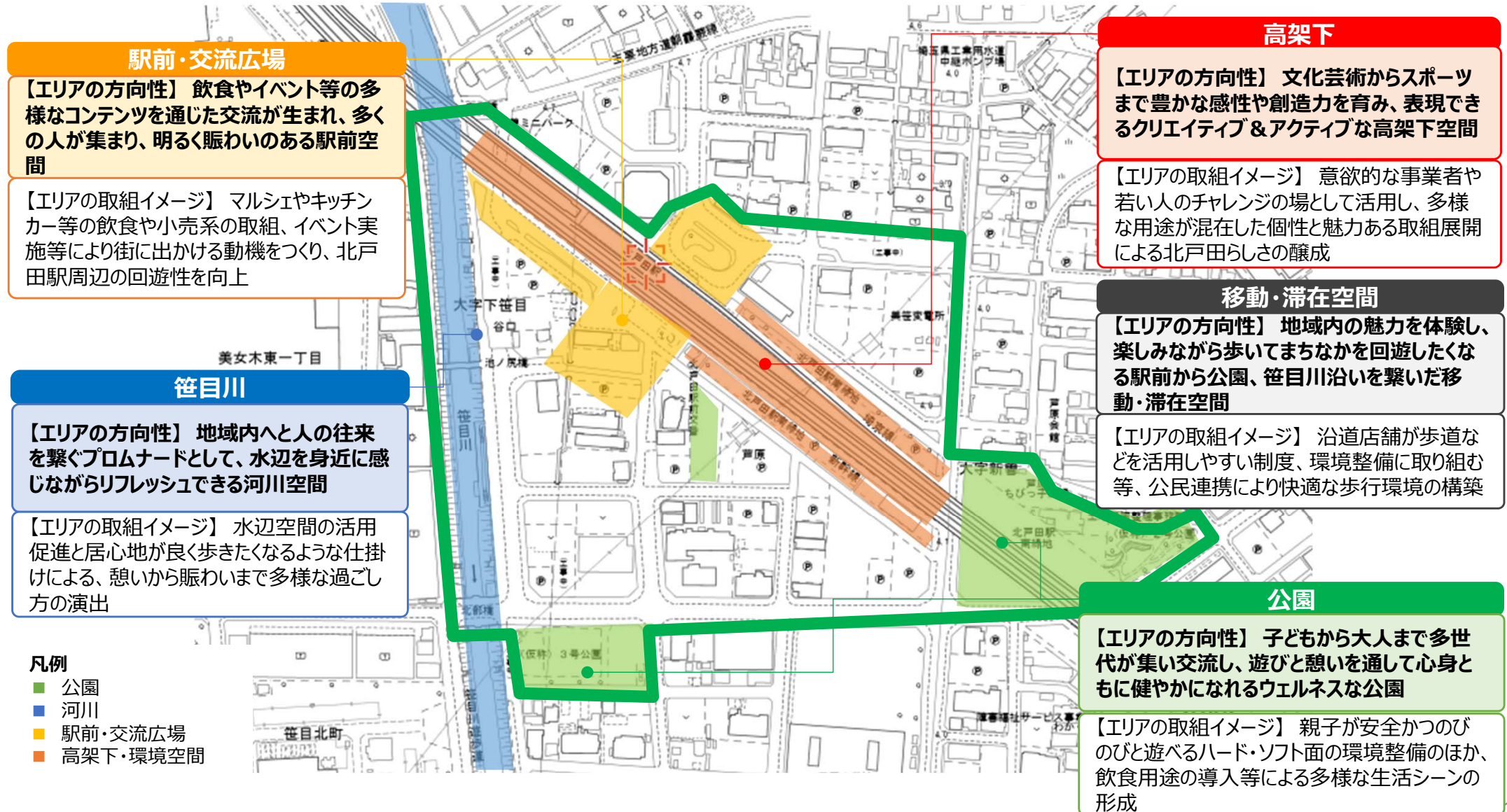
- 各エリアの特性やワークショップでの意見を踏まえ、基本方針のうち、重点方針については駅前・交流広場、高架下、公園における取組を通して実現を図っていく。また、基盤方針①は駅前・交流広場、道路における取組を通じて、基盤方針②は駅前・交流広場、笹目川、公園、動線となる移動・滞在空間における取組を通じて実現を図っていく。



⑤エリア別の方向性・取組イメージ

1) エリアの方向性、取組イメージの整理

- 各エリアの特性と実現すべき重点方針・基盤方針を踏まえ、エリア別の方向性と取り組みイメージを整理した。
- 駅前・高架下はアクティブ要素の強い“動的”な位置づけとし、笹目川・道路・公園は憩いやリフレッシュ要素の強い落ち着いたある“静的”な位置づけとする。



⑤エリア別の方向性・取組イメージ

駅前・交流広場

～飲食やイベント等の多様なコンテンツを通じた交流が生まれ、多くの人が集まり、明るく賑わいのある駅前空間～

活用シーンのイメージ



重点方針

多彩なイベントの開催で“通過する場所”から“集う場所”への転換

基盤方針①

人と車両の安全が確保された交通結節点

基盤方針②

北戸田のまちの顔に相応しい明るい空間形成

取組イメージ

- ✓ マルシェやキッチンカー等の飲食や小売系の取組
- ✓ イベント実施等により街に出かける動機づくり
- ✓ 歩きやすい動線を確認し北戸田駅周辺の回遊性向上に貢献
- ✓ 緑化やライトアップなど明るく親しみやすい景観形成

出所：(写真上) イケサンパークウェブサイト
(写真下) 中野セントラルパークウェブサイト

⑤エリア別の方向性・取組イメージ

高架下

～文化芸術からスポーツまで豊かな感性や創造力を育み、表現できるクリエイティブ & アクティブな高架下空間～

活用シーンのイメージ



重点方針

多彩なチャレンジを応援する、まちに開かれた高架下のリ
ニューアル

取組イメージ

- ✓ ニーズ等に応じた高架下空間の再配置の検討
- ✓ チャレンジを応援する施設や高架の高さを生かした活
動空間の整備
- ✓ 創意工夫による多様なコンテンツを歩きながら楽しむ
緩やかな空間の連携



出所：(写真上) さいたま市ウェブサイト
(写真下) MA-TOウェブサイト

⑤エリア別の方向性・取組イメージ

公園

～子どもから大人まで多世代が集い交流し、遊びと憩いを通して心身ともに健やかになれるウェルネスな公園～

活用シーンのイメージ



重点方針

柔軟な発想で活用できるオープンスペースの形成
ニーズに応じた施設の配置で通いたくなる公園へ

基盤方針②

緑豊かで親しみやすい空間形成

取組イメージ

- ✓ 親子が安全かつのびのびと遊べるハード・ソフト面の環境整備
- ✓ 飲食用途の導入等による多様な生活シーンの形成
- ✓ 市民参加での緑化活動
- ✓ 自由に活用できるルール作り

出所：（写真上下）豊島区ウェブサイト

⑤エリア別の方向性・取組イメージ

笹目川

～地域内へと人の往来を繋ぐプロムナードとして、水辺を身近に感じながらリフレッシュできる河川空間～

活用シーンのイメージ



基盤方針②

水と緑の豊かな自然が感じられ、歩きやすく居心地の良い空間形成

取組イメージ

- ✓ イベントや川遊びなど、水辺空間の活用促進
- ✓ 居心地が良く歩きたくなるような仕掛けによる、憩いから賑わいまで多様な過ごし方の演出



出所：(写真上) 柏の葉アーバンデザインセンターウェブサイト
(写真下) 渋谷ストリームウェブサイト

⑤エリア別の方向性・取組イメージ

移動・滞在空間

～地域内の魅力を体験し、楽しみながら歩いてまちなかを回遊したくなる駅前から公園、笹目川沿いを繋いだ移動・滞在空間～

活用シーンのイメージ



基盤方針①

人と車両の安全が確保された移動・滞在空間

基盤方針②

官民の創意工夫で明るく親しみやすい空間形成

取組イメージ

- ✓ 沿道店舗が歩道などを活用しやすい制度の活用
- ✓ 協働での環境整備など、公民連携により快適な歩行環境の構築



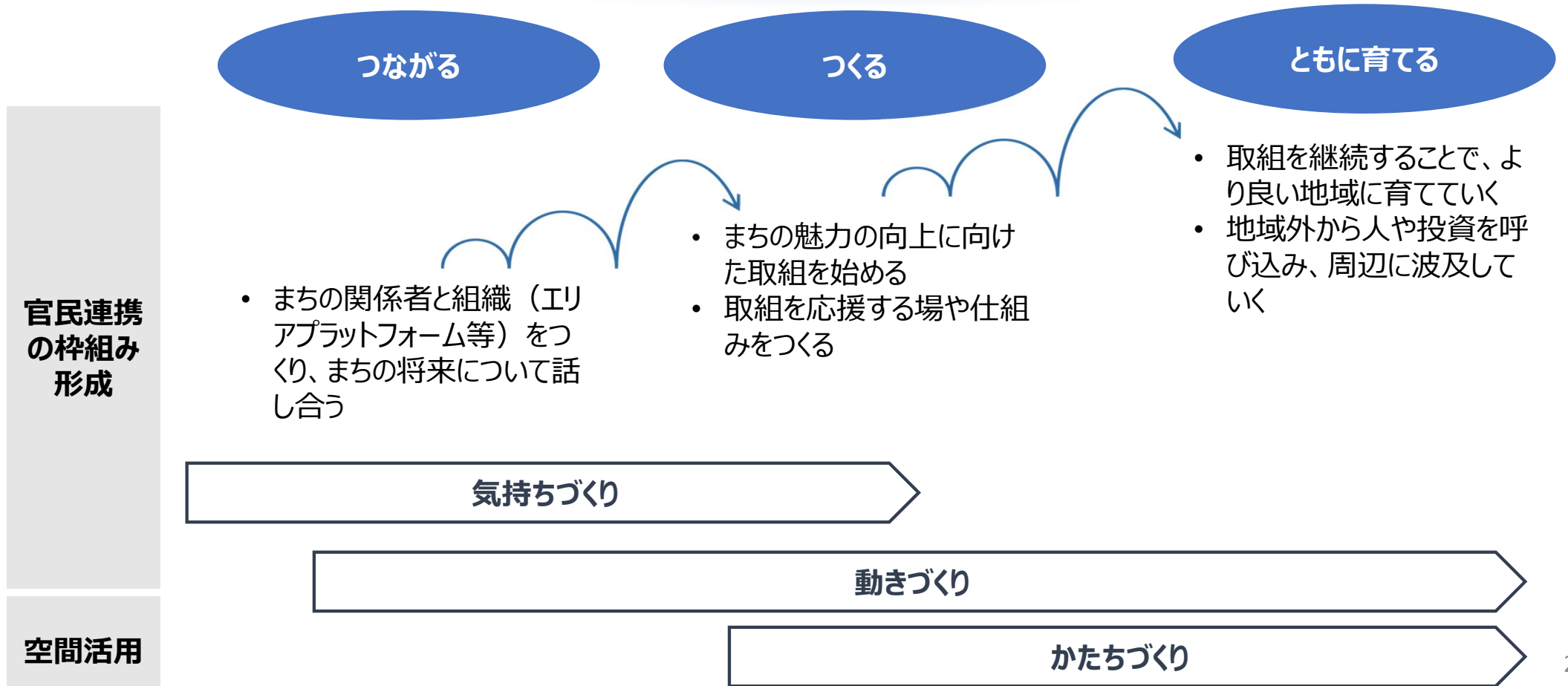
出所：(写真上) シモキタ園芸部ウェブサイト
(写真下) ファーレ立川ウェブサイト

1)実施体制の構築

将来ビジョンに掲げたチャレンジを応援し変化し続けていくまちづくりの実現に向けては、段階的かつ持続可能な取り組みが必要。当面は国の補助等の行政支援を受けながら、将来的には民間資本による、より柔軟で独創的な事業の展開を可能とすることでより魅力的なまちなかへと変化し続ける好循環を生み出すことを目指す。実現の第一歩として、継続的にまちの将来について話し合い、取り組みを進めるための組織の形成を行う。

コンセプトの構築に向けた方向性

新しいチャレンジを**応援し、育てていく**ことで
街並みと人が**変化し続ける楽しみ**のあるまち、北戸田



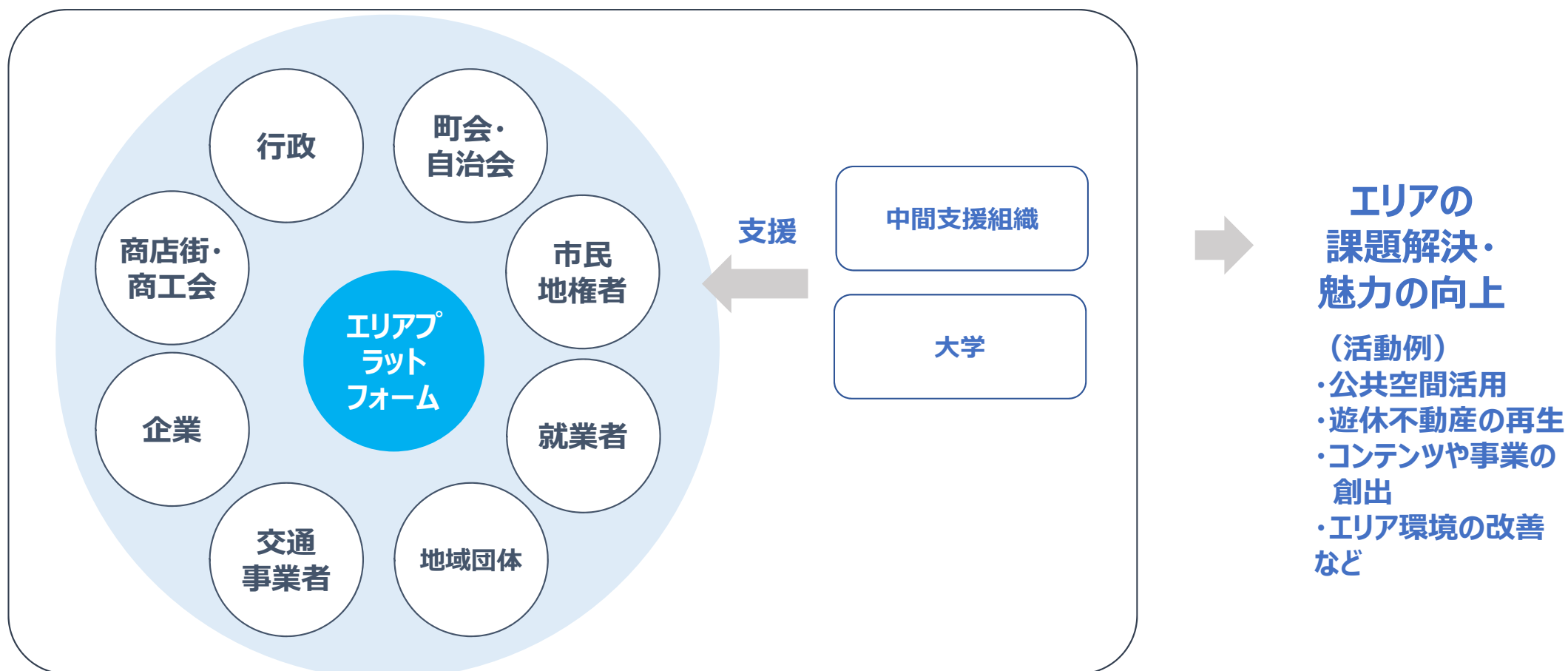
⑥実施体制の検討

1)実施体制の構築

持続可能な活動に向けて、エリアプラットフォーム等の官民が継続的かつ緩やかにつながる場を構築する。

エリアプラットフォームとは、行政をはじめ、まちづくりの担い手であるまちづくり会社・団体、まちづくりや地域課題の解決に関心のある企業、自治会・町内会、商店街・商工会、住民、地権者、就業者等が集まって、まちの将来像を議論・描き、その実現に向けた取り組み（＝まちづくり）を行うための場を指す。

多様な立場の主体が一堂に会することで、先行事例からは「担い手の拡大」「手続きのワンストップ化」「にぎわい創出」「住民の意識向上・ネットワークの形成」「街並みや景観の形成」「遊休不動産の活用」といった効果が挙げられる。



参考資料：「まちづくりの可能性を広げるエリアプラットフォーム」（国土交通省都市局まちづくり推進課）

⑥実施体制の検討

修正

2)スケジュール

- 今後、将来ビジョンの成案化を進めるとともに、当該ビジョンに基づき令和6年度から官民連携の枠組み形成や空間活用に向けた社会実験を進めていく。

ウォークブル推進事業の想定スケジュール

		R5	R6	R7	R8	R9	R10
将来ビジョンの策定		素案作成	策定・公表				
都市再生整備計画の策定		準備	計画の遂行				
官民連携の枠組み形成		WS	エリアプラットフォームの組成	エリアプラットフォームに基づく主体的な活動			
空間活用			社会実験				
空間整備	交流広場	設計		整備実施	交流事業		
	その他空間		整備方針の検討	整備実施（順次）			